

随想

お酒の「コーマーシャル」

最近ではそれほど酒も飲まなくなりましたが、テレビを見る機会も大幅に減ってしまっただけで、お酒の「コーマーシャル」はどうしてあんなに高いものが揃っているのだろうか。その広告にかけた費用や宣伝の印象深さほどに実際の酒が高品質であるかどうかは知らないが、いずれにせよ酒の「コーマーシャル」は見ていて飽きることがない。おそらくは酒を一滴も飲まない人が見てもそれなりに楽しめるのではなからうか。様々な有名人を使って一年中繰り広げられている「コーマーシャル」を中心とし、焼酎、ウイスキー、ブランデー、そして時には清酒と、多種多様な広告たちが次から次へと現れては幻のように消えてゆく。以前私は清酒であったが、ビールCMの怒濤に押し流されて現在ではビール党に鞍代えをしつつある。大量消費広告に洗脳されるのは良くないということを知識として持ってはいても、ビールたけしや緒形拳がさもうまそうに缶ビールを飲み干す姿を見れば「あ、僕も」と思いたくなるのが健全な人の心のありかたであろう。今までで私のもっとも気に入っている酒CMは、数年前にキリンシールドが流した「ロバートブラウン」の「コーマーシャル」である。イギリスあたりの身なりの良い青年達（といっても三十歳前後？）がグラスにウイスキーをついで楽しく語り合っており、回想シーンとしてポート競技（エイト）の様子がセピア

色に映し出される。どうやら大学のポート部で同じ釜の飯を食った仲間たちの同窓会的な雰囲気なのだが、BGMにはパッパ無伴奏チェロソナタの冒頭部分が流れている。まだそれほど時を経ておらず、セピア色であるとは言え鮮明に思い起こすことができる、しかしもう二度と甦ることはない自分たちの時代を惜しんで語り合う男達の爽やかな郷愁が無伴奏チェロソナタの重厚な旋律とともに見事に折りなされ、時間が結晶化したような美しい映像が画面に展開されるのである。当時高校生で下宿生活を送っていた私は、プロ野球ニュースの合間に放送されるこのCM見たさに毎晩十一時になるとテレビのある友達の家を駆り込んだものである。キリンシールドという会社は、このCMを遡ること十数年前にもVSO Pか何かのブランデーの宣伝でジャズのレストランでナンバーを巧みに取り入れた「コーマーシャル」を作り、一世を風靡している。幼い頃からこのようなCMを見て育った私は、こういう高級な酒を飲める日が来ることを心待ちにしていた。

最近のものでは、サントリーのウイスキー「山崎」の宣伝が良い。「山崎が歌っている。」うんうん、僕も山崎と一緒に歌いたいよ。「何も足さない。何も引かない。」なるほど、人間もこういう境地に辿り着けたらよいものだなあ。地方の放送局がやっている地酒のCMにも逸品が多い。山形県酒田市の「初」などは、田舎の造り酒屋がよくここまで凝ったものだという「コーマーシャル」を作っているし、「澤の露」「高清水」などもなかなかよい。それから、大原麗子が昔やって大ヒットしたのは「すこし愛して、ながく愛して」というサントリーオールド（リザーブだったかもしれない）の「コーマーシャル」だが、このCMは低迷を続けていた「だるま」（オールドの愛称）の売上げを倍増させただけでなく、大原麗子自身の人気まで再び大沸騰させてしまった。これなど、お酒のCMがいかに高い人気を誇っているのかを示す好例であると言えるだろう。

考えてみれば、酒に限らずこういう贅沢品の「コーマーシャル」はともよく考えられているものが多い。自動車や缶コーヒーのCMにも、外国人の著名俳優を起用し莫大な費用をかけて製作しているものが多数見られる。贅沢品だからこそ高級なCMが成立するという説もあるだろうが、そこに、常に精神的な高みへ登り詰めるようなものが、けれどもそれが極めて困難であるためにせめて酒やコーヒーの中に一時凌ぎの非日常を作りだそうという純粹に人間的な呼掛けを聞くような気がするのには私だけではあるまい。いずれにせよその高みは遠いし、私などはこうした格好良いCMで宣伝されているお酒のほとんどは財政的な理由から飲んだことがない。ウイスキーは相変わらずホワイト、ビールはラガー、焼酎は樹氷で、清酒は鬼ごろしパックと、圧倒的な量産品しか悲しいことに手が出ない。だが思うのは、おいしいお酒をおいしく味わうには二十代という私達の年齢ではまだまだ経験がたりなすぎるのではないかと、いうことである。ここでいう経験とはもちろんたくさんの種類と量の酒をこなすという意味ではない。村上春樹が「良い文章を書くには、とにかく一生懸命に生きるしかない」と言っているが、これとまったく同じで、おいしいお酒をおいしく飲むには、もっともって人生経験が必要であるような気がするということである。還暦をとうに過ぎた私の父親は「毎夜の晩酌をするたびに、今日もまた俺の人生を生き抜いたぞ、という感慨が積み重なってゆく」というのだが、今の私では、「積み重ねる」どころか喪失感にとらわれるだけである。ああ、今日もうまく行かなかった、酒でも飲もうか……。

酒に頼らず、酒に飲まれず、うまい酒をしみじみ「うまい」と感じて飲み干すことができる日が来るまで、一步一步確実に生きて行くしかない、と決意を新たにする今日この頃である。

（地球惑星物理学教室・伊藤孝士）

